

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第62回本部会議 記録

日 時／令和3年7月2日（金）

18：30～18：53

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第62回本部会議を開催いたします。

まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【原田新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧くださいと思います。

まず、主な指標の状況ですけれども、本日時点で重症者用病床の使用数と感染経路不明の割合ですけれども、前の週を上回っているという状況です。

国の分科会提言で示されております新たな指標についてでございますが、本日現在、全道では、全ての指標において、ステージⅢの目安を下回っている一方で、札幌市については、全道より高い水準となっておりますけれども、病床の使用率、また、入院率などで国のステージⅢの指標を上回っているという状況です。

全道の感染状況ですが、減少傾向が続いておりまして、昨日までの直近1週間で、人口10万人当たり4.4人、リンクなしの割合は上昇が続いておりまして47.7%という状況です。

札幌市の状況です。同様に減少傾向が続いておりまして、昨日時点で10万人当たり8.2人。しかし、リンクなしの割合ですけれども、上昇が続いておりまして、一昨日は1か月ぶりに50%を超えてまして、昨日時点で53.8%と高い水準となっております。札幌市と札幌市以外の状況ですけれども、共にピークに比べれば大きく減少していることが見て取れるかと思えます。

地域の感染状況ですが、昨日までの1週間の新規感染者数は、前の週と比べ、多くの地域で減少しているという状況です。

また、発症日別の新規感染者の状況ですけれども、5月中旬のピークから減少傾向が継続しているという状況です。

年代別の感染者数の推移ですけれども、20代・30代の割合が急激に上昇しておりまして、昨日時点で43.7%。また、10代の割合も足元の上昇幅が大きい状況で、これらの若い世代で新規感染者の6割近くを占めているという状況です。また、年代別の新規感染者を地域別にみますと、特に札幌市ですけれども、30代以下の割合が高くなっておりまして、おおよそ7割となっている。若い世代の新規陽性者の割合というのは、感染拡大の先行指標とされておりまして、注視が必要な状況です。

監視体制です。昨日までの直近1週間で、14,952件の検査を行っており、陽性率は1.6%という状況になっています。

医療提供体制の状況ですが、全道の入院患者数は減少が続いておりまして、昨日現在で、385人となっております。また、重症者の患者数ですけれども、減少傾向というトレンドとなっておりますけれども、昨日現在で28人という状況です。

集団感染の発生状況ですけれども、6月ですが、5月に比べ件数・人数とも大きく減少しております。特に、医療・福祉施設と飲食店等で減少しておりますが、事業所等については、集団感染の減少は見られますものの、6月も継続的に発生しております、全体の中でのウェイトが高くなっているという状況です。また、1週間ごとの集団感染の発生状況ですけれども、札幌市と札幌市以外ともにいずれも減少傾向が継続しているという状況です。

続いて、ワクチンの状況ですけれども、高齢者向けのワクチンの接種状況ですが、先月末現在、1回目の接種を終了した方は、約76万人で、接種率は45.9%、2回目の接種を終了した方は、約32万4千人で、19.6%という状況です。

続いて、高齢者向けの接種状況ですけれども、高齢者人口区分別で接種率を見ています。まず、ワクチン接種に当たりまして、個人の接種状況を記録するために、自治体や医療機関の皆様には、ワクチン接種記録システム、我々はVRSと読んでますけれども、そちらに接種の結果を入力していただいております。ワクチンの配分に当たりまして、このVRSによる接種率に応じて配分する取扱いがなされておまして、重要な指標でございますため、今回、VRSベースで見た接種率を詳しくお示ししているという状況です。

これで見ますと、人口規模の小さい市町村では接種率が高く、大きい市町村ほど低い傾向にあることが分かり、結果として、道全体の接種率が低く見られる一因ともなっているという状況です。しかしながら、道内におきましては、事務処理上の課題等から、VRSへの入力が進まず、実際の接種実績とVES上の数値に乖離が生じている自治体も見られますことから、実際の接種率よりもここに掲載されている接種率というものが低く出ている場合もございますので、その点を十分ご留意いただきたいと考えております。なお、道といたしましては、接種実績の正確な把握とワクチン供給を円滑に受けるためにも、このVRSの入力を上げていくということが重要だと思っておりますので、各自自治体に対しましては、その早期の入力について、協力をお願いしているという状況です。

続いて、直近1週間におけます高齢者向けワクチンの接種回数ですけれども、約27万8千回ということで、1日平均約4万回となり、前の週と比べますと、約6,500回増えているという状況でございます。

高齢者向けワクチンの状況でございますけれども、二つ目の〇のところで、道のワクチン接種センターですが、集団接種については、第3週の予約状況は、予約率が74.4%となっております。また、先月26日から、道医師会の協力の下、一部でオンライン予診の運用を開始しております。さらに、同センターにおいて生じるキャンセルや予約枠との差分のワクチンを有効活用し、潜在看護師や警察職員の方々への接種を開始したという状況です。

職域接種及び大学拠点接種の状況ですけれども、申請受付が一時休止されました先月25日の17時までですけれども、209件の申請があり、申請ベースの接種対象者は約53万人となっております。

ワクチン供給の状況です。先月23日の河野大臣の会見で、モデルナ社製ワクチンを使用した職域接種の新規申請受付の一時休止ということと、自治体の大規模接種に係る同社製ワクチンの新規の申請の即時休止が示されている。その後、菅総理からは、職域接種について、新規の受付は停止を継続する旨、また、河野大臣会見からは、現時点で申請受付再開のめどは立っていない旨の発表がなされている。こうした状況に関しまして、道からは、先月29日、国に対し、今後の手続きや見通しなど、早急に対応方針を示すことなどの緊急要望を実施しているという状況です。国では9月末までに希望する国民へ接種する量のワクチンを確保できる見通しとしておりますが、現段階で詳細な供給スケジュールは示され

ておりません。高齢者向けワクチンについては、既に道内の希望する高齢者分が確保されているものの、一般分については、一部の自治体で接種の予約受付を一時休止するなど、接種への影響が出る可能性があるという状況になっています。

続いて、感染性が高いとされていますデルタ株の関しての検査状況です。原則、感染経路不明の陽性者全ての検体について、検査を実施しているという状況でございますけれども、昨日までに1,197件の検査を実施し、疑い事例の数ですけれども、先月29日の道内初の札幌市の事例の後、昨晚、新たに1件が判明し、2件となっております。

なお、昨晚判明した1件ですが、30代女性の道外在住者で、旅行で来道されたが、来道後に軽い体調不良を感じて医療機関を受診され、その医療機関で実施した検査で陽性が判明したという事例でございます。なお、来道時の航空機内で1名の濃厚接触者が確認されておりますが、道内では不特定多数の方との接触はなく、道内に到着して以降の濃厚接触者はいないということを確認しております。

続いて、人出の状況です。札幌駅の人出の状況ですけれども、日中・夜間ともに増加傾向が継続しております。特に日中の時間帯は、4月の水準まで人出が戻っており、まん延防止等重点措置前と比較いたしますと、いずれも2割以上の増加となっております。

続いて、すすきの駅周辺の状況ですけれども、札幌駅周辺とほぼ同様の傾向。特に夜間で急増しております。足元では横ばいではありますが、まん延防止等重点措置前と比較すると4割以上増加しております。注視が必要な状況となっております。

最後に総評です。全道の新規感染者数ですが、札幌市を含めて、減少傾向が続いております。一方、札幌市においては、感染拡大の予兆を示すとされている感染経路不明の割合が増加しており、50%を超える状況。また、若年層の新規感染者数の割合も上昇しています。札幌市の人流も、6月に入り増加傾向が続き、特に日中は、ゴールデンウィーク特別対策の実施前の水準に戻っているという状況です。

医療提供体制です。全道の入院患者数は減少傾向が続いております。札幌市内の医療提供体制も改善傾向が続いておりますが、病床の使用率、入院率など、国のステージⅢの指標を上回っているという状況です。

首都圏における感染状況ですが、6月30日、東京都の感染者数が700人を超えるなど、東京を中心とする首都圏において新規感染者数が増加に転じ、感染の再拡大が強く懸念されているという状況になっています。

ワクチンの状況です。65歳以上の高齢者への接種ですけれども、6月30日現在、1回目45.9%、2回目19.6%が終了しました。一日当たりの接種回数ですけれども、前週よりも約6,500回増加し、約4万回となっております。職域接種については、受付が休止されるまでの間に、道内では209件の申請がありました。また、北海道ワクチン接種センターですが、キャンセル等に伴う差分のワクチンを有効活用し、潜在看護師及び警察職員への接種を開始するという事と、6月26日からオンライン予診も開始しているということです。

今後の対策です。感染状況は大きく改善し、医療提供体制への負荷も徐々に低減しておりますが、札幌市内においては、医療提供体制は国のステージⅢの指標を上回っているとともに、デルタ株の疑い事例が確認されたほか、感染経路不明割合など、感染拡大の予兆とされる指標が悪化し、警戒が必要な状況でございます。まん延防止等重点措置の下、措置の徹底を図ってまいります。

また、本道は都府県との往来が活発な地域でございます。首都圏における感染の拡大を踏まえて、緊急事態措置区域及びまん延防止等重点措置区域、具体的には沖縄県や東京都などとの往来を極力控えることについて、より一層徹底を図ってまいります。

今後の感染拡大が懸念されますデルタ株についてですが、原則、感染経路不明の陽性者全ての検体について検査を実施する中、6月29日、道内で最初となる疑い事例が確認され、また、昨日にも道外在住者で旅行で来道された方の感染疑い事例が確認されたところです。疑い事例が感染された場合には速やかな情報提供や感染拡大の防止に徹底して取り組んでまいります。

最後に、国に対して今後のワクチン供給に関する緊急要望を実施したところであり、引き続き、国から情報収集を行いながら、市町村へのきめ細やかな支援を行うなど、希望する方が1日でも早くワクチン接種を終えることができるよう取り組んでまいります。

以上が資料1の説明です。引き続き、資料2をご覧くださいと思います。

道内の感染状況等については、専門家及び有識者のご意見を伺うとともに、市町村や関係団体にも事前にお知らせしております。有識者、専門家の皆様からは、概ね妥当であるというご意見をいただいておりますが、その主なものをご紹介しますと、(1-①)道外からの移動が活発になればすぐ状況が悪化するので、引き続き注意が必要といったご意見や、(1-②)人流が戻りつつあり、デルタ株の感染拡大が懸念されるため、検体検査の継続と状況の把握をお願いしたいといった意見。(1-③)オリンピック、夏休み、お盆等で人の往来が更に増えることが予想されることから、ワクチン接種を進めると同時に、接種済みの人も含めて引き続き感染予防対策をとることが重要であることを伝えてほしいといったご意見。(1-⑤)感染経路不明は、把握できていないだけの可能性もあるので、丁寧な聞き取りを進めてほしい。また、高齢者へのワクチン接種を強力に推進すべきといったご意見。(1-⑦)市町村におけますワクチン接種を円滑に進めるため、市町村が求めるワクチンが確実に配分されるよう、また、ワクチン供給に関する具体的なスケジュール等を速やかに示すよう、国に申し入れていただきたいといったご意見が寄せられております。こうしたご意見につきましては、今後の対策に活かしてまいりたいと考えております。

私からの説明は以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております山口感染症担当部長から説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

資料3に基づきまして、札幌市内の感染状況についてご説明をいたします。

まず1ページをご覧ください。新規感染者の1週間の合計につきましては、昨日、7月1日時点では160人となっております。また、本日1日の新規感染者数は18人となっております。人口10万人当たりでは8.2人と、国のステージⅢ、北海道警戒ステージ4の指標であります人口10万人当たり15人を大きく下回るどころまで減少してきているところでございます。

次のスライドをご覧ください。札幌市民の入院患者数の状況などのスライドでございます。昨日時点の入院患者数は146人と、ピーク時、これは6月4日の480人でございますが、この480人の3割程度まで減少してございますが、医療提供体制の負荷を抑え、次の感染拡大に備えるためにも、より一層患者数を減らしていくことが重要と考えてございます。

それでは最後のスライドとなります。次をご覧ください。検査数につきましては、直近の1週間の検査件数は7,427件でございます。陽性率につきましては昨日7月1日時点

で2.2%という、この赤の折れ線グラフですが、札幌市が目標といたします5%を下回る水準で推移をしてございます。

グラフの左上の方にありますが、デルタ株等、L452R変異のスクリーニングについてでございますが、直近の1週間の検査実施割合は67.0%と6割を超えて実施をしているところでございますが、今回、市内で初となるデルタ株疑いの患者さんが1例確認されております。調査の概要をご説明いたしますと、患者さんは発症前に仕事で道外との往来歴があり、そこで感染された可能性があると考えております。市内それから道内での活動といたしましては、感染可能期間における不特定多数との接触の可能性のある施設等の利用はなかったことを確認しております。この方と接触された方につきましては把握できておまして、濃厚接触者であります1名の方につきましては、PCR検査の結果、陰性が確認されております。

今回の事案による感染の広がりには確認されていないところですが、デルタ株につきましては、アルファ株よりも感染力が強いと言われておまして、市内に広がった場合には、第4波を上回る感染拡大となる可能性が懸念されるところでございます。そのためには、特に市内での発生状況を発生が確認された初期段階におきまして、感染が疑われる接触者を早期に検査に繋げていくことが重要であると考えております。今後もスクリーニング検査率のさらなる向上に努めるとともに、デルタ株と疑われる検体を確認した場合には、状況に応じた柔軟かつ迅速な対応を図るほか、速やかな情報発信により地域の方々に対して注意喚起を行うなど、まん延をできるだけ抑えていくための取組を進めているところでございます。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

この他、各部、振興局等からご発言ありますか。
なければ、本部長からお願いいたします

【本部長（知事）】

まん延防止等重点措置に移行してから、間もなく2週間となります。この間、全道の新規感染者数は減少傾向が続き、本日の新規感染者は26人、10万人あたりでは4.3人となり、大きく改善をいたしました。また、徐々ではありますが、医療提供体制の負荷も減少をしてきているところであります。これまでの皆様のご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

しかしながら、足下の状況、本道を取り巻く環境を踏まえますと決して楽観視することができる状況にはありません。1つ目は、デルタ株の確認であります。先日、デルタ株への感染が疑われる道内初の事例が札幌市内で確認をされ、また、昨日、道外在住者の方で、旅行で来道された方の感染疑い事例が確認をされました。デルタ株は、従来株より1.95倍の感染力があるとも言われております。今後、置き換わりが進むとの指摘もあり、危機感を持った対応が必要であります。

2つ目は、感染拡大の予兆とされる指標の悪化です。特に札幌市内における感染経路不明割合や人流が増加しておまして、リバウンドに対する警戒が必要であります。

3つ目は、首都圏における感染の拡大です。東京の新規感染者数は、緊急事態宣言の水準ともなる国のステージⅣの目安を超え、東京を中心とする首都圏では、感染の再拡大が強く懸念をされているところです。本道は都府県との往来が活発であり、他の都府県の感

染状況に影響を受けやすい環境にあることも懸念をされます。

こうした状況を踏まえ、決して気を緩めることはできない状況にあります。各本部員においては、7月11日までのまん延防止等重点措置のもと、改めて警戒感を高め、道民の皆様、事業者の方々のご理解、ご協力をいただきながら、全道での対策の徹底、特に、札幌市の重要性を踏まえ、札幌市と連携をして、市内の対策の徹底を図るように指示をいたします。

また、デルタ株については、引き続き、スクリーニング検査をしっかりと行い、デルタ株が確認された場合には、速やかに情報提供を行った上で、皆様に感染防止行動の徹底を図っていただくよう、取り組んでください。なお、これまでの道内2つのデルタ株の疑い事例では、道外との往来といった行動歴が確認をされ、道外で感染をした可能性があります。現在、東京は緊急事態宣言レベルの感染状況となっております。また、関東地方では、デルタ株の置き換わりが進み、30%を占めるとの調査もあります。本道におけるリバウンドを回避をしていくためにも、東京を中心とした首都圏との往来は、慎重の上にも慎重に検討いただき、今は、できる限り控えていただくよう、道民の皆様をお願い申し上げます。

そして、ワクチンの接種についてであります。7月末までに、希望する高齢者向けの接種を終える予定となっておりますが、職域接種の新規申請受付の停止が継続をするなどワクチンを巡る状況について日々変化をしております。国との連携が極めて重要であり、引き続き、積極的に情報収集を行いながら、必要に応じて、機動的に要望を行い、しっかりと市町村、企業等の皆様にサポートをし、円滑な接種に繋げていけるよう指示をいたします。

私からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示があったことにつきまして、各本部員は必要な対応をお願いいたします。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第62回本部会議を終了いたします。

(了)